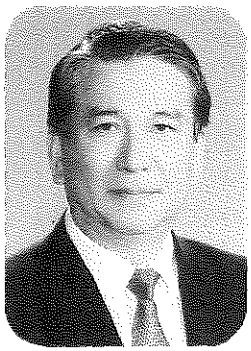
栃木県中学校長会報

平成17年9月9日　発行
栃木県中学校長会広報部　第103号

小さな歩み、確実な歩み



栃木県中学校長会長
宇都宮市立陽北中学校
校長　新　沼　隆　三

本県中学校教育の振興を図るという本会の目的達成に意を新たにして、早4月余が経ちました。本会会員はそれぞれが自校の経営責任者であり、時間的精神的制約等は他団体会員等の比ではありません。こうした中、今年度から事業等の大幅な見直しを進めておりますが、スリム化検討の柱である、事業内容の量的・質的面や費用対効果等の吟味を前提とする時間・軽費の節約は今後、本会の目的を一層具現化していくための大切な視点であると考えます。

ご案内のとおり、校長先決事項の一部委任等が今後進められるものとは思われますが、人事・予算等の校長裁量権の拡大や「新たな教員評価システム」の本格実施等、校長の職務は増大の一途を辿らざるを得ないものと思われます。こうした状況等も踏まえ、私どもは一つ一つの事業を、改めて「中学校教育の振興」という大きなフィルターをとおして、また、量的・質的面や費用対効果等の視点に立って、改善していく必要があると考えます。

教育は、いつの時代にあっても理想を追求する最後の砦であろうと思います。子供たちの発達を阻害し、思考力の発達を弱体化している社会環境や心身の活力を減退させている家庭環境の問題等、学校教育を巡る課題は山積しておりますが、こうしたある種の病理現象等と真摯に対峙し続けていく気概をお互いに持ちつづけていきたいものです。

――教育が危機というが、政治はどうだ。国家財政は。宗教は。すべて同様ではないか。危機的でない社会って果たしてあるのか。危機的でない時代、危機的でない人生ってあるのか。大切なことは、人間どこまでも希望と勇気を失ってはいけないということだよ。――10年ほど前に聴いた平泉中尊寺千田貫首の言葉が想い起こされます。

事務局だより ――組織改定のもとにスタート――

県中学校長会は平成15年度より事業検討委員会を立ち上げ、組織編制等、より良い事業のあり方を検討してきました。その結果、今年度より下記の通りの大幅な改定のもと事業がスタートしました。

1　会議・研修会等の日数・時間の削減縮小
　①　1月の理事研修会を削除
　②　9月の研究大会を午後半日で実施
　③　10月の理事研修会を研究大会の日の午前に実施
　④　2月1泊2日の理事・協議員研修会を半日で実施
　　（1日目夕方の知事及び教育長の講話がなくなるが、9月の研究大会時に、年度ごと知事・教育長・民間人の順に講演を実施）

2　会議・研修会等の参加人数の縮小
　①　協議員の数を各地区4校に1名から、7校に1名に縮小（県全体：旧42名→新25名）
　②　総会の参加者を全員から代議員制に縮小
　　（代議員は各地区7校に1名）
　③　4月理事協議員研修会を理事研修会に縮小

3　専門部の統合（8専門部→6専門部）
　①　事業部の活動（研修会）を研修部が兼務
　②　調査部の活動（諸調査）を事務局が兼務

4　その他
　①　総会の来賓は各関係機関の代表のみ招待し、来賓あいさつは教育長のみ
　　（来賓招待者数：旧128名→新9名）

以上、主な改定面について紹介しましたが、今後、県全体における、校長の出張の軽減、時間と軽費の節約、学校数の少ない地区への負担の軽減、事業のスリム化と内容の充実等の効果が期待されます。

本誌、県中学校長会「会報」も形式を新たに内容を充実したものにして発刊されました。今後、今回の改定のもと、県中学校会の各事業が今まで以上に充実したものになっていくものと思われます。

専門部活動計画

総　務　部 部長　犬塚　恒士 宇・泉が丘中	○県教育委員会との協議に向けて（前半） 例年８月に行われる「県教育委員会との協議」。今年度は８月８日。その協議事項の検討を行い全会員の意見として協議に臨むことができました。感謝。 ○運営方針の策定（後半） 次年度の本会運営の基本的な方向を定める「平成18年度県中学校長会運営方針（案）」の策定に力を注ぐ。会員の声を主にしながら国、県の動きも視野に入れ総務部員の力を結集したい。支援をよろしくお願いします。
研　修　部 部長　山市　　隆 宇・一条中	○　研究主題　　豊な未来社会を創るたくましい日本人を育てる中学校教育 ○　事業計画　・第27回栃木県中学校長会研究大会（９/９㈮） ・栃木県中学校長会研修会（生涯の生活設計について）（12/２㈮） ・研究集録の作成（２月配布予定） ・平成18年度研究主題及び重点研究課題の検討 ・研修部会の開催（延べ６回）
広　報　部 部長　佐藤　哲夫 宇・旭　中	平成17年７月第１回広報部会を開催し、協議の結果「栃木県中学校長会報103号」より紙面の量、内容等を刷新し、発行回数はこれまで同様２回とします。 ○発行予定と主な内容 ・103号（平成17年９月発行） 会長挨拶、事務局だより、専門部活動計画、新任校長の一言、私の学校経営、トピックス（全日本中学校長会編集「中学校」の内容紹介） ・104号（平成18年２月発行） 県教委との協議、各地区校長会活動報告、特色ある教育、特集、事務局より
生徒指導部 部長　金田　和男 塩・北高根沢中	○　平成17年度の研修課題 ・いじめ、不登校、暴力行為などの問題行動等への指導体制の強化 ・性教育、薬物乱用・喫煙防止教育等の健康教育の一層の推進 ・健全な社会生活をおくるための規範意識、社会性の育成とマナー指導の推進 ○　第１回部会研修会　平成17年10月17日㈪　栃木県教育会館 ○　研究課題について、各校で取り組んでいる研究実践を発表し課題解決に役立てる
進路対策部 部長　飯塚　克己 南・烏山中	平成17年度「中学校進路指導の適正な推進と高校入試等改善の提言」と研究主題を設定し、その達成を図るため、組織及び事業計画を決定した。 平成17年度役員は、部長　飯塚克己（南・烏山中）、副部長　板橋正道（芳・大内中）、野中一男（下・都賀中）と決定し、事業を推進する。また、事業計画は、第２回研修会を８月26日㈮栃木県立博物館で開催し、県立高校入試に関するアンケート調査結果を検討する。第３回研修会は10月31日㈪宇都宮市教育センターで開催し、アンケート調査結果に基づいた要望を県教委、県立高校との懇談会で行う。
修学旅行部 部長　中山　一郎 宇・陽東中	５月　県修学旅行部役員選出（事前に部会を開かず電話等で） ６月３日㈮　関東修学旅行委員会総会並びに第１回研究協議会（東京上野） ７月１日㈮　第１回県修学旅行部会（教育会館）専用列車利用申し込み等打合せ ９月30日㈮　第２回研究協議会、10月28日㈮第３回研究協議会（上野） 10月４日㈫　茨城県・栃木県合同修学旅行研究協議会（茨城県水戸市） 11月１日㈫　第41回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会（群馬県水上町） 18年２月23日㈭　第４回研究協議会

H17.9.

〔私の学校経営〕

小山市立絹中学校長　柴　　久　子

本校は豊かな緑と地域愛に包まれた生徒数166名の小規模校である。その特徴を生かし、全校生が一緒に活動する場面が多い。青少年赤十字（ＪＲＣ）活動もその一つで、地域内の史跡の清掃、社会福祉施設との交流、高齢者とのふれあい学習など様々な体験活動を実施している。これらの活動をとおしてＪＲＣの態度目標である「気づき、考え、実行する」生徒の育成に努めている。

また、これらの共同体験は地域の人々、生徒、教職員のコミュニケーションを図る良い機会でもある。共に汗を流し、課題を解決し、感動を共有することができる。何よりも終わった時の充足感が心を温めてくれる。

これからも意図的に多くの体験活動を設定し、主体的に行動できる生徒を育てていきたい。

これまでの活動をとおし、本校職員から学んだことがある。生徒を動かすには教職員が楽しんで動くことだ。生徒と一緒に活動することを仕事と考えるのではなく、喜びと思える教職員が生徒を変えることができるようである。

〔新任校長の一言〕

栃木市立寺尾中学校長　相　田　喜久夫

「今時こんな中学校があるのかなぁ？」と思うほどショックを受けた４か月でした。

４月１日に新たな寺尾中学校の創造を目指して、信頼し合える人間関係の確立を図る方策として

- 出会いを大切にする
- 心と心が響き合う
- お互いの気持ちを十分に理解し合う
- 信頼関係を築いていく
- やすらぎやぬくもりのある善意に満ちた人間関係
- 生きがい、やりがい、夢や希望を抱いて生きる

という「寺尾中学校の教育を支えるもの」を職員会議で提言しました。人間関係がうまく確立できないところに学校教育は成り立たないからです。

ところがこの心配も４月８日の新任式・始業式・入学式の生徒の態度で吹き飛んでしまいました。「目で話を聞く」ということが言われますが、生徒全員の目が話をしている私をしっかりと見ているのです。感動で体が震えてしまいました。生徒がしっかりしているということは、保護者も地域の人も教職員もしっかりしている証で心が引き締まりました。

矢板市立泉中学校長　渡　邉　幸　雄

平成16年度がスタートを切って間もない７月に、本校に赴任してきました。学校はすでに前校長の経営方針に沿って動き出していました。しかも様々な場面で挨拶をし、ひとたび事が起きれば決断し責任を負わなければならない。新任校長にとって日々不安と緊張の連続でした。しかし、明るく素直な生徒に、緑豊かな落ち着いた環境。そして、元気な挨拶で始まる学校生活。とてもさわやかで、今日も一日頑張るぞという気持ちになりました。

本校は、現在127名の小規模校ですが、地域の行事に生徒が積極的に関わっており、学校が「地域の学校」として支えられ、学校・家庭・地域社会が一体となった教育が進められています。

学校は、人づくりの場です。まずは職員室が明るく、教職員の笑顔が絶えないことが前提になくてはならないと思っています。教職員の和を大切にしながら、生徒の可能性を伸ばすため、生徒一人ひとりに目配り・気配りをし、きめ細かな指導の中で、学校教育の両輪である「確かな学力」と「豊かな人間性」を身に付けさせていきたいと思います。

黒羽町立黒羽中学校　谷田部　日出三

校長は、どこの学校でも、必ず大勢の前で話やあいさつをする機会が数多く用意されているのは、すでに御承知のとおりです。

始業式でのあいさつが、校長として最初の話であったが、これまでの経験から、内容は大体どこでも同じものであり、本校にあった内容、そして、私の考えを取り入れた内容で、原稿を見ながらお話しできるので大丈夫だろうと、あれやこれや話す内容を考えたものの、なかなか草稿できず、その日が近づいて来るにしたがって、大きなプレッシャーがのしかかってきたのを感じました。

校長の話は、「学校の教育活動を方向づけ、揺さぶり、躍進させていく原動力であり、学校経営の歯車の軸心である」と、先輩校長に教えられていたので、それなりに覚悟はしていたものの、当日は、生来の話下手も手伝って、ふるえと冷や汗とともに、忘れられない苦い思い出のスタートとなりました。

その後も、生徒・職員、全参加者が耳をそばだて、目を輝かせ、聞き入るような話をすることは、実に難しい（当然ではあるが）ことで、話をすることを苦痛に感じているのは、私だけでしょうか。

今更ながら、先輩校長のお話が懐かしく、改めて先輩校長のご苦労と偉大さを思い知らされ、今後も話の機会があるたびに、あれやこれやと色々悩む日々が続くのだろう、と思っている今の私です。

トピックス

県教委指定研究学校等から ――中学校関係抜粋――

県教委指定研究学校

No.	研究領域	地区	指定校名	指定年度
1	人権教育	河内	河内町立河内中学校	H16・17
2		芳賀	益子町立七井中学校	
3	ネイティブイングリッシュティーチャー配置活用事業	河内	上三川町立上三川中学校	H15～17
4		下都賀	石橋町立石橋中学校	
5		那須	大田原市立金田北中学校	

文部科学省等指定研究校、推進校等

No.	研究領域・事業名	地区	指定校名	指定年度
1	確かな学力育成のための実践研究事業	河内	宇都宮市立一条中学校	H17・18
2		上都賀	粟野町立粟野中学校	
3		芳賀	芳賀町立芳賀中学校	
4		下都賀	小山市立豊田中学校	
5		塩谷	さくら市立喜連川中学校	
6		那須	黒羽町立川西中学校	
7		南那須	烏山町立烏山中学校	
8		安足	佐野市立赤見中学校	
9	学力向上支援事業	那須	那須塩原市立三島中学校	H16・17
10		南那須	烏山町立烏山中学校	
11	児童生徒の心に響く道徳推進事業	芳賀	茂木町立茂木中学校	H16・17
12	児童生徒の心に響く道徳教育推進事業－命を大切にする心をはぐくむ教育の推進に関する研究－	芳賀	二宮町立久下田中学校	H17・18
13		下都賀	藤原町立藤岡第一中学校・藤岡第二中学校	

「中学校」（全日中機関誌の掲載予定）

月	特集主題	主な内容
9	社会の多様化と学校	①国際理解教育の推進　②多国籍化する在籍生徒と学校経営　③多様化する学校への要請と学校経営
10	役員研修会特集号	
11	検証－教育課程	①学力問題と教育課程の工夫　②豊かな心をはぐくむ教育課程の工夫　③個の伸長と教育課程の工夫
12	心の教育	①道徳的実践力を高める学校経営　②豊かな心をはぐくむ－家庭・地域との連携－　③世界にみる「心の教育」
1	研究協議会三重大会特集号	
2	新たなタイプの学校	①「コミュニティ・スクール」に期待するもの　②小中一貫校・中高一貫校から教育からみる中学校の新たな展望　③外部評価を活用した学校経営
3	当面する諸課題の展望	①キャリア教育の構築、②部活動と学校経営、③ＰＴＡのあり方－変容するＰＴＡ－